

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		学び舎with梓川教室				公表日	2026年3月31日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		基準よりも広いスペースを確保しています。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		配置基準を満たした人員を配置しています。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		室内に段差はなく、バリアフリーとなっております。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		日頃より清掃、整理整頓等の環境整備に努めています。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		クールダウンスペースを確保しています。	年齢や活動内容に応じて過ごしやすいよう、パーティションで空間を区切り、見通しを持って活動に取り組める環境を整えています。活動ごとに必要な物品を分かりやすく配置し、集中しやすいスペースとリラックスできるスペースを分けることで、本人が安心して過ごせるよう工夫しています。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		正社員・パートから広く意見を聞き、業務改善に努めています。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		保護者向け評価表により保護者等の意向を把握する機会を設け、その内容を業務改善に活かしています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		毎日のミーティングや、職員面談により、職員の意見を聞き改善に努めています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6		金沢大学の先生に入っていたことで、第三者による評価もしていただいています。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		社内研修を行い、県等が主催する研修にも参加しています。	保護者との連絡、子どもの情報共有等をその日の子供たちが帰った後に各々している。それを次の日のミーティングで話題をあげられているため、全職員が理解できていると感じる。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		毎月10日に公表し、20日までに申し込み受付を行っています。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		日頃の児童観察や保護者へのアセスメントをもとに共有し作成しています。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		児発管を中心に、指導員にも共有して、検討しています。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		日頃のミーティングでも、児童の様子や課題を確認しながら支援に臨んでいます。		

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		Vineland-II 適応行動尺度を用い、客観的な評価を実施しています。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		児発管を中心に、日頃の児童の様子や保護者とのアセスメントをもとにして支援内容を設定しています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		課題や振り返りをもとに、個別に支援方法などを検討しています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		5領域をもとにした、幅広い経験が出来るよう、プログラム内容を考案しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		プログラムを考案する際に、偏らないようにしています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		役割分担や加配の指示等について、療育前に必ず打ち合わせを実施しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		当日にできなかった際には、翌日の打ち合わせの際に同時に実施しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		気付きの共有・検討・改善を共有し次の支援に活かすよう努めています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		6か月に1度更新という基準にもとづいて見直しをしています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		普段からそのお子さまの様子を見ている職員が参加するようにしており、日々の関わりをもとにした情報をお伝えできるようにしています。	
	25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		児童の状況に応じて、主治医や相談支援専門員、保育園・学校などと連絡を取りながら支援を進めています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		併行利用や就学・進級に向けた移行支援を行う際には、保育園・特別支援学校などの関係機関と情報共有を行い、支援内容の相互理解を図っています。こどもが安心して園や学校と行き来できるよう、必要に応じて連携を取りながら支援を進めています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		就学時の移行に際しては、小学校や特別支援学校と必要に応じて情報共有を行い、こどもの特性や支援内容について相互理解を図っています。面談を通して、学校生活へスムーズに移行できるよう連携しています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					

		(31は、事業所のみ回答)			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6		地域の児童発達支援センターと連携し、必要に応じてスーパーバイズや助言を受けられる機会を設けています。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6		面談だけでなく、日頃の送迎やシステムを使った連絡のやり取りを行い、共通理解を図っております。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		利用児童の保護者や地域へ向け、ペアプロや子育てセミナーを企画しています。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		ペアレント・プログラム等の家族支援プログラムの情報提供を行っています。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約の際、丁寧にしています。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		児発管を中心に、保護者の意向を確認する機会を設け、意思の尊重と最善の利益を踏まえて作成しています。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		アセスメントにて、丁寧にしています。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		ご相談には真摯に対応し、今後に向けた助言や支援をともに考えたり提案しています。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		保護者会は現状ありませんが、親子で参加できる機会を設け、子どもの様子を見ていただくと同時に、保護者同士のコミュニケーションを取れるように検討いたします。(5月に実施予定)
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		こどもや保護者からの相談や申入れに対応する体制を整備し、その内容を周知するとともに、相談や申入れがあった場合には迅速かつ適切に対応しています。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		ブログ、インスタ、紙ベースでのwithレポートにて発信しております。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		個人情報の取扱いについて、法令や規程に基づき十分に留意して対応しています。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		わかりやすい説明や個々に応じた配慮を行っています。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		地域に開かれた事業運営に努めてまいります。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		事故防止・緊急時対応・防犯・感染症対応等の各種マニュアルを策定し、職員や保護者へ周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しています。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		避難訓練を年に4回ほど実施し、消防士の方もお招きしています。

非常時等の対応	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		契約の際に確認し、変更があった際など定期的に確認しています。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		クッキングやお出かけの際に、該当の食材が当たらないようにしています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		子どもの送迎をしているため、安全に関しては日頃より意識を高め、社内の車両担当者による運転講習も実施しています。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		契約の際に確認し、避難訓練や運転講習の様子はインスタ等でも発信しています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハットを記録し、教室内や社内全体で共有しています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		日頃から職員同士で見合うとともに、県等が主催する研修に参加しています。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		身体拘束について、事前に保護者の了解を十分に得た上で、個別支援計画にも記載しています。	